

# 福島の子どもたちを放射能から守るために 避難・集団疎開を促進させよう！

5月23日福島の父母たちは文科省に乗り込み、20ミリシーベルトの基準の撤回と被ばくを最小限にするための具体的な措置を求めて行動を起こしました（写真）。

これを受けて高木文科大臣は「1ミリシーベルトを目指す」としこれを福島県に文書で通知しました。しかし、ここで言う1ミリシーベルトは、給食やほこりの吸引による内部被ばく、事故直後3月の被ばく、通学を含む学校外での被ばくを除くというものでした。これでは福島の子どもたちを守ることはできません。

福島原発事故は一向に終息の気配をみせません。福島県内は放射線量が高い状態が続いており、文科省が行った積算線量の予測では、福島市内でも年間15ミリシーベルトに達する地区があり、10ミリシーベルトを超える地区も複数あります。そんな中で自主的に避難を進める人が増えています。既に1万人の子どもたちを含む3万人以上が県外へ避難しています。一方で、避難したくてもできない人が多くいるのが実状です。



## 子どもたちを救え！避難・疎開の促進を！

避難・疎開が進まない最大の原因は、国、福島県をはじめ行政が動かないことにあります。福島県は、「100ミリシーベルト以下なら安全」と平然とやってのけ、低線量被ばくの影響を軽視する山下俊一・長崎大教授を放射線リスク健康管理アドバイザーに据え、安全神話を県内にばらまき、避難させない土壌をつくるのに躍起になっています。行政は福島県民に対し、放射線・放射能のリスクについてきちんと説明した上で、避難者に対する財政支援や夏休みを前倒しするなど、希望する人に対し、避難が速やかに行えるよう措置を講ずるべきです。山下俊一・長崎大教授を即刻解任すべきです。

## 首都圏でも高線量…法定1ミリシーベルトを守れ！

首都圏でも高い放射線量が観測されています。江東区では母親たちが専門家を呼んだ独自の測定により、下水の汚泥焼却施設から放射能が放出され、二次被ばくの可能性があることを明らかにし、告発しました。千葉県柏市、我孫子市、松戸市、埼玉県三郷市の一带も放射線量が高く、ホットスポットと呼ばれています。住民は、学校や公園の詳細な測定、給食の食材などの測定を求め、内部被ばくを含め、トータルで年間1ミリシーベルトという線量限度を守るよう、そのための措置をとるよう求めています。

法律で定められた一般公衆の線量限度は、年1ミリシーベルトです。首都圏において、内部被ばくや学校外を含め、トータルで1ミリシーベルトを守らせることが、福島の子どもたちを守ることにもつながります。

### 福島老朽原発を考える会

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 2-19 銀鈴会館 405 号 共同事務所A I R 気付

TEL 03-5225-7213 FAX 03-5225-7214

<http://fukurou.txt-nifty.com/fukurou/> [fukurounokai@mail.goo.ne.jp](mailto:fukurounokai@mail.goo.ne.jp)

